

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第六百十號

海軍大臣官房

大正十一年四月一日(土)

○令 達

官房第一一七五號  
 舊軍艦周防、津輕、沖島、橋立、舊驅逐艦陽炎、舊水雷艇燕、雁、蒼鷹、鶴、第六十七號、第六十八號、第七十號、第七十一號各水雷艇及舊特務務艦叢雲、夕霧ハ之ヲ雜役船ニ編入シ其ノ種類、船名、公稱番號及所屬等左ノ通定ム

大正十一年四月一日

海軍大臣 男爵 加藤友三郎

種 類	船 名 (公稱番號)	所 屬	曳船兼交通船	陽 炎	吳海軍工廠
(追テ之ヲ定ム)	周 防 (舊軍艦)	吳海軍港務部 保管船	同	公稱第五一〇號 (舊第七十號水雷艇)	吳海軍工廠
(追テ之ヲ定ム)	津 輕 (舊軍艦)	橫須賀海軍港務部 保管船	同	公稱第五一一號 (舊第七十一號水雷艇)	吳海軍工廠 支廠
(追テ之ヲ定ム)	沖 島 (舊軍艦)	佐世保海軍團	同	公稱第五一二號 (舊第六十七號水雷艇)	吳海軍團
練 習 船	橋 立 (舊軍艦)	橫須賀海軍團	同	燕 (舊水雷艇)	橫須賀海軍工廠
練 習 船	橋 立 (舊軍艦)	橫須賀海軍團	同	公稱第五一三號 (舊第六十八號水雷艇)	橫須賀海軍工廠
練 習 船	橋 立 (舊軍艦)	橫須賀海軍團	同	雁 (舊水雷艇)	佐世保海軍工廠
練 習 船	橋 立 (舊軍艦)	橫須賀海軍團	同	蒼 鷹 (舊水雷艇)	佐世保海軍工廠
練 習 船	橋 立 (舊軍艦)	橫須賀海軍團	同	鶴 (舊水雷艇)	佐世保海軍工廠
練 習 船	橋 立 (舊軍艦)	橫須賀海軍團	同	叢 雲 (舊特務務艦)	海軍水雷學校
練 習 船	橋 立 (舊軍艦)	橫須賀海軍團	同	夕 霧 (舊特務務艦)	橫須賀海軍港務部

○通 牒

海軍公報 (部内限) 第六百十號 大正十一年四月一日

0856

官房第一一七六號

大正十一年四月一日

廢止

當分ノ間海軍省臨時勤務員兵科佐官、大尉、大尉、南洋群島ニ在勤セシメ左記要領ニ依リ服務セシメラルルコトナレリ

大正十一年四月一日

海軍省副官 野村吉三郎

記

- 一、南洋廳ト連繫ヲ保持シ海軍關係事項ノ交渉、處理、調査及諜報事務ニ服ス
- 二、諜報事務ニ關シテハ海軍軍令部長ノ、横須賀鎮守府所掌事項ニ關シテハ同鎮守府司令長官ノ區處ヲ受ケシム

官房第一一七七號ノ二

軍務局内臨時編成部ノ件ニ關シ左記ノ通決裁セラレタリ

大正十一年四月一日

海軍省副官 野村吉三郎

官房第一一七七號

(四月一日決裁)

軍務局内臨時編成部ノ件ニ關シ大正九年官房機密第一五〇八號ヲ以テ決裁セラレタル次第モ有之候處爾今右

編制中潜水部ノミヲ存置スルコトトシ南洋部殘務整理ハ軍務局第一課ニ於テ取扱フ

○ 辭 令

(各通) 海軍大佐 森 電 三

海軍省臨時勤務員トシテ軍務局勤務(南洋群島在勤)ヲ命ス

海軍中佐 植村 茂夫

海軍省臨時勤務員トシテ人事局勤務ヲ命ス

海軍少佐 塚原 二四三

海軍省臨時勤務員トシテ軍務局勤務ヲ命ス(以上海軍省)

( 部 内 限 )

# 海軍公報

(部内限)第六百一十一號

大正十一年四月四日(火)

海軍大臣官房

大出

## ○通 牒

官房機密第四八四號

大正十一年四月四日

海軍次官 井出 謙 治

各 廳 長 殿

今春帝國議會ニ提出ノ大正八年度決算中會計検査院ノ  
 非難事項少カラス其中海軍省所管ニ於テ虚構事實ニ對  
 スル不當支出ト認ムルモノ六件、陸軍省二件、其他各  
 省ニ一、二件アリ通計十一件ヲ算シ海軍省所管最モ多  
 ク貴衆兩院ニ於テ將來ノ注意ヲ促サレタルハ頗ル遺憾  
 ニ堪ヘス今其ノ大要ヲ擧クレハ佐世保、吳兩經理部技  
 手、技生等ノ建築工事用職工人夫賃ノ騙取又ハ佐世保  
 工廠技手某ノ納人ト共謀シタル不正納品代金ノ騙取等  
 ニシテ如斯非違ハ延イテ海軍全般ノ信用ニモ關スル次  
 第ニ候條此ノ際一層部下職員ノ監督ヲ勵行セシメラレ  
 度

右依命申進ス

## ○雜 款

○通信

三月三日ヨリ午前二時ノ新聞電報ハ從前通電弧式波長  
 一萬二千ニテ送信ス(船橋海軍無線電信所)

海軍公報 (部内限) 第六百一十一號 大正十一年四月四日

一三三

0858

# 海軍公報

(部内限) 第六百十二號

大正十一年四月五日(水)

## 海軍大臣官房

### ○令達

官房第一二三五號

舞鶴防備隊附屬

公稱第五五九號 水雷運貨船

右舞鶴防備隊附屬ヲ解キ舞鶴海軍工廠臨時附屬トス

大正十一年四月五日

海軍大臣 男爵 加藤友三郎

### ○辭令

海軍技師 福村 琢磨

同 隅野 貞太郎

海軍接手 向井 義正

同 高柳 秀策

同 荒木 力次

同 山田 千代

同 能勢 孝敬

同 佐藤 三保太

(各通)

海軍公報 (部内限) 第六百十二號 大正十一年四月五日

東亞露領沿岸へ出張ヲ命ス(關海軍省)

同 齋藤 平八  
同 北村 晋介  
器械手 伊藤 鈴太郎  
同 小谷 徳松

0859

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第六百十三號

海軍大臣官房

大正十一年四月六日(木)

○通牒

官房機密第五〇〇號

大正十一年四月六日

海軍次官 井出 謙治

各鎮守府司令長官  
各要港部司令官 殿

海軍艦船裝内規ハ海軍艦船裝規程中之ニ代ルヘキ  
事項ヲ制定發布スル時機迄引續キ準用スル儀ト御承知  
相成度  
右依命通知ス

艦本機密第一一六〇號

大正十一年四月六日

海軍艦政本部

關係各部 御中

射擊用裝藥供給後無煙火藥貯藏検査ノ爲試料採擇ノ結

右通知ス

海軍公報 (部内限) 第六百十三號

大正十一年四月六日

一三七

果同一種目ノ無煙火藥ヲ使用シ修理不可能ノ場合有之  
射擊並供給整理上不便不勤候條爾今左記ニ依リ増給相  
成度  
右通牒ス

記

- 一、大口径砲ニ在リテハ一種目ニツキ 一發分
- 二、小口径砲ニ在リテハ一種目ニツキ 二發分
- 三、陸上部隊ニ對シテハ必要ニ應シ右以內ニ於テ増給  
スルコトヲ得
- 四、増給裝藥ノ殘餘ハ射擊終了後時機ヲ得次第還納ス  
ルモノトス

教本第一七四號ノ四

大正十一年四月六日

海軍教育本部

無線電信遠距離受信檢定成績調査資料ノ件

大正十一年三月第四回無線電信遠距離受信檢定信文送  
信要目左記ノ通  
右通知ス

0860

番號	送信日	時	波長	送信地	速度	信文修正
一	三月二十八日	午後二時三十分	三〇〇	五	八〇	
二	同	二時八分	三〇〇	五	八二	交付日時午前四時十九分午後四時十四分ト送信ス
三	同	二時十三分	三〇〇	五	八四	
四	同	二時十八分	三〇〇	五	八四	
五	同	二時二十三分	三〇〇	五	八四	
六	同	二時二十八分	三〇〇	五	八二	本文九十五字目〇ヲ除線ト送信ス
七	同	二時三十三分	三〇〇	五	八四	本文五十一字目〇ヲ一〇ト送信ス
八	同	二時三十八分	三〇〇	五	八四	本文四十七字目〇ヲ一九ト送信ス
九	同	二時四十三分	三〇〇	五	八四	本文八十六字目九ヲ一〇ト送信ス
一〇	同	二時四十八分	三〇〇	五	八四	本文四十一字目四ヲ一〇ト送信ス
一一	同	二時五十四分	三〇〇	五	八一	
一二	同	二時五十九分	三〇〇	五	八一	

備 一、送信文、數字暗號、五字目毎ニ語間隔ヲ置ク  
考 二、天候曇

○辭令

東京帝國大學教授 永井 潛  
海軍ニ於ケル生理學調査囑託ノ報酬トシテ金四百圓ヲ贈與ス

東京帝國大學教授 松本 亦太郎  
海軍ニ於ケル實驗心理學應用ニ關スル調査顧問囑託ノ報酬トシテ金四百圓ヲ贈與ス(以上西海軍省)

○雜款

○通信復舊(三月二十二日)  
鳳山無線電信所主送信機通信ニ差支ナシ

○懲罰

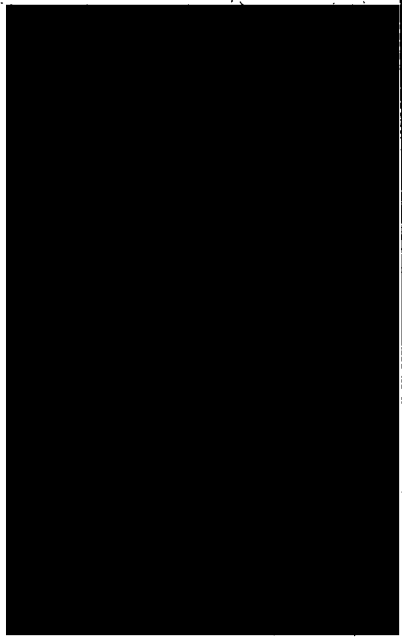
懲罰言渡書



0861

海軍公報 (部内限) 第六百十三號 大正十一年四月六日

三九



0862

# 海軍公報

(部内限) 第六百十四號

大正十一年四月七日(金)

## 海軍大臣官房

### ○令 達

官房機密第五〇二號

大正十一年四月七日

海軍大臣 男爵 加藤 友三郎

各鎮守府司令長官殿

兵器簿中改正ノ件

各艦船部隊兵器簿機關長主管電球ノ部中エ式十六燭電球  
 三三〇V ヲ エ式十六燭電球 三三〇V ニ、エ式十六燭電球  
 三三〇V ヲ エ式十六燭電球 三三〇V ニ改正ス  
 右訓令ス

### ○通 牒

艦本機密第一二八三號

大正十一年四月七日

海軍艦政本部長 岡 田 啓 介

各關係廳長殿

### 兵器簿中改正ノ件

大正十一年四月七日官房機密第五〇二號ヲ以テ兵器簿  
 中改正相成候新規電球ハ左記ノ通ニシテ是カ供給ニ關  
 シテハ舊電球ノ消耗報告ヲ俟テ漸次引換フルモノトス  
 右通知ス

記

電 球 名 稱	圖 面 番 號	摘 要
エ式一六燭電球 三三〇V三三號	白電第一ノ 二二號	茄子型金屬纖維條ニシテ在 來ノ炭素纖維條タルエ式一 六燭電球三三〇V又ハエ式 一六燭電球一〇〇V使用ノ 各種燈籠ニ適合ス
エ式一六燭電球 一〇〇V二三號	白電第一ノ 二三號	

### ○雜 款

○職工解備

海軍火藥廠ニ於テ本年三月中解備セル職工左ノ如シ

海軍公報 (部内限) 第六百十四號

大正十一年四月七日

一三一

0863



海軍公報 (部内限) 第六百十四號 大正十一年四月七日

一三一

解備月日	三、二六	同	同	同	同	同	同	同
解備事由	同	同	同	同	同	同	同	同
職名	木工	同	同	同	同	同	同	同
氏名	[Redacted Name]							
生年月日	三、二六	三、二六	三、二六	三、二六	三、二六	三、二六	三、二六	三、二六

0864

# 海軍公報 (部内限) 第六百十五號

大正十一年四月八日 (土) 海軍大臣官房

## ○令 達

官房第一二七八號

大正四年十二月官房第三八二五號中「特務艦武藏」ヲ加フ

本令ハ大正十一年四月十日ヨリ之ヲ施行ス

大正十一年四月八日

海軍大臣 男爵 加藤 友三郎

參照 大正四年十二月官房第三八二五號ハ臨時軍費ヲ以テ總役ヲ支辨スヘキ各部ノ件ナリ

官房第一二七九號

舊軍艦周防及津輕還納左記艦載水雷艇等ヲ雜役船ニ編入シ其ノ公稱番號、所屬ヲ各頭書ノ通定ム

大正十一年四月八日

海軍大臣 男爵 加藤 友三郎

番號	種類	所屬	記事
第五四號	曳船兼交通船	吳海軍港務部 (用換)	周防還納 艦載水雷艇
第五五號	同	海軍潛水學校 (補充)	同
第五六號	同	海軍潛水學校 (補充)	同
第五〇號	機艇 (ランテ)	大湊防備隊 (補充)	同
第五二號	同 右	横須賀海軍港務部	津輕還納 ランテ
第五三號	同 (ピンネス)	海軍潛水學校 (補充)	周防還納 ピンネス
第五三號	同 (カッター)	海軍潛水學校 (補充)	同
第五四號	同 (カッター)	海軍兵學校 (用換)	津輕還納 カッター
第五五號	同 (カッター)	海軍潛水學校 (補充)	周防還納 カッター
第五六號	同 (カッター)	海軍兵學校 (用換)	津輕還納 カッター
第五七號	機艇 (カッター)	海軍潛水學校 (補充)	周防還納 カッター

海軍公報 (部内限) 第六百十五號 大正十一年四月八日

一三三

0865

海軍公報 (部内限) 第六百十五號 大正十二年四月八日

第二四八號	同 (カツタ)	横須賀海軍港務部	津輕還納 カツタ
第二四七號	傳馬船 二七呎	海軍潜水學校 (定數補充)	周防還納 船
第二四六號	同 二七呎	海軍潜水學校 (定數補充)	同 船
第二四五號	同 二〇呎	海軍潜水學校 (定數補充)	同 船
第二四四號	同 二七呎	海軍水雷學校 (定數補充)	津輕還納 船
第二四三號	同 三〇呎	横須賀海軍港務部	同 船
第二四二號	同 二〇呎	海軍水雷學校 (定數補充)	同 船

一三四

0866

(限内部)

海軍公報

(部内限) 第六百十六號

○ 辭令

(各通)

海軍機關大尉

吉村 誠一郎

海軍機關中尉

古野 博

臨時海軍航空術講習部部員ヲ命ス(海軍省)

大正十一年四月十日(月)

海軍大臣官房

海軍公報 (部内限) 第六百十六號 大正十一年四月十日

一三五

0867

(限内部)

海軍公報 (部内限) 第六百十七號

大正十一年四月十一日(火)  
海軍大臣官房

○ 辭令

勳六等 古澤敏太郎  
特務艦武藏密通譯ヲ囑託ス  
但報酬月額貳百貳拾圓ヲ給シ部内限リ奏任官待遇ト  
ス(海軍省)  
海軍主計中尉 宮本 正光  
臨時海軍航空術講習部部員ヲ命ス(海軍省)

○ 雜款

○ 懲罰

懲罰言渡書

海軍公報 (部内限) 第六百十七號 大正十一年四月十一日

一三七

0868

海軍公報 (部内限) 第六百十七號 大正十一年四月十一日

一三八

0869

# 海軍公報

(部内限) 第六百十八號

海軍大臣官房

大正十一年四月十二日(水)

## ○通牒

軍第一六七號ノ三

大正十一年四月十二日

海軍省軍務局長 堀内 三郎

各 應 長 殿

無線電信呼出符號ノ件

今般特設運送船日高丸ニ左記ノ通無線電信呼出符號ヲ  
點付シ海軍無線電報取扱規約ヲ準用スルコトト相成候  
右通牒ス

記  
日 高 丸 J. R. E

教本第一七四號ノ五

大正十一年四月十二日

海軍教育本部

無線電信遠距離受信檢定成績調査資料ノ件

海軍公報 (部内限) 第六百十八號 大正十一年四月十二日

一三九

大正十一年四月第五回無線電信遠距離受信檢定信文送  
信要目左記ノ通  
右通知ス

信文	番號	船	橋	送	信
信文修正	送信日時	波長 (米)	送信勢 力(ワット)	速度 (分間)	
	一	四月四日午後二 時五分開始午後 二時五十八分終 了	二〇〇〇	四〇	二二
	二		二〇〇〇	四〇	二七
	三		二〇〇〇	四〇	二〇
	四		二〇〇〇	四〇	二五
	五		二〇〇〇	四〇	二五
	六		二〇〇〇	四〇	二〇
	七		二〇〇〇	四〇	二二
	八		二〇〇〇	四〇	二五

0870

考 備	三	二	一	九
	一、送信文無意味歐文 二、送信狀態良好 三、天候曇	1000	1000	1000
	四	四	四	四
	一〇	一〇	一〇	一〇
				第三册四丁目 Z不正字

0871



( 部 内 限 )

海軍公報

(部内限) 第六百十九號

海軍大臣官房

大正十一年四月十三日(木)

○ 令 達

官房第一三七一號

第四十五期高等科砲術練習生卒業者中ヨリ左記ニ依リ  
適任者ヲ殘留セシメ測敵術及火藥火工品取扱法ニ關ス  
ル講習ヲ施行スベシ

大正十一年四月十三日

海軍大臣 男爵 加藤友三郎

記

一、講習員

種 別	員 數	
	種 別	測 敵 術
火藥火工品取扱法	六	六
橫須賀	五	五
吳	五	五
佐世保	四	四
舞鶴	四	四

合 計

二〇

二〇

二、講習開始期日 大正十一年四月三十日  
三、講習期間 約二ヶ月  
右告達ス

○ 通 牒

軍務機密第二三五號

大正十一年四月十三日

海軍省軍務局長 堀内三郎

各 應 長 殿

青島無線電信局事務開始ノ件

青島守備軍民政部遞信部所屬青島無線電信局事務開始  
ニ付遞信省部内關係各局へ左ノ通牒致置キタル旨同  
省通信局長ヨリ通知有之候  
右通牒ス

記

海軍公報 (部内限) 第六百十九號 大正十一年四月十三日

一四一

0872

二月十六日ヨリ青島無線電信局ニ於テ一般公衆無線  
電報(外國電報ヲ除ク)ノ取扱開始セラレタルニ付  
テハ左記各項ヲ知ル上可然取扱アリタシ  
追テ右ハ差向キ公表セラレサル義ニ付御含アリタ  
シ

呼出符號 J A N

電波長 六百「メートル」及千八百「メ  
ートル」前者ヲ通常電波長トス  
船舶ニ對スル聽守時間 毎時最初ノ十分時

○ 辭 令

海軍軍令部出仕兼參謀海軍大尉 山村 實  
第三班軍事調査課勤務ヲ命ス(謂フ海軍軍令部)

0873

( 部 内 限 )

海軍公報 (部内限) 第六百二十號

大正十一年四月十四日 (金)  
海軍大臣官房

○ 令 達

官房第一三九三號

大正十年官房第一七四一號亞細亞露領沿岸ニ派遣スル  
艦船乗員ノ給與ニ關スル件申左ノ通改正ス  
本令ハ大正十一年四月四日ヨリ之ヲ適用ス

大正十一年四月十四日

海軍大臣 男爵 加藤 友三郎

第一項但書中「石見」ノ下ニ「及軍艦日進」ヲ加フ  
同項中特務艦大泊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ  
軍艦 日進

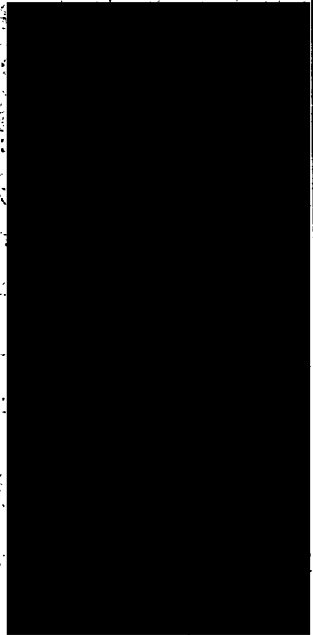
○ 雜 款

○ 艦 記  
○ 艦 記 補 遺  
○ 艦 記 補 遺

海軍公報 (部内限) 第六百二十號 大正十一年四月十四日

一四四

0874



海軍公報 (部内限) 第六百二十號  
大正十一年四月十四日

命令

海軍大臣 田代 文相

海軍大臣 田代 文相  
海軍公報 (部内限) 第六百二十號  
大正十一年四月十四日

海軍大臣 田代 文相  
大正十一年四月十四日 (金)

0875

( 限 内 部 )

# 海軍公報

(部内限) 第六百二十一號

大正十一年四月十五日(土)  
海軍大臣官房

## ○令達

官房第一四一二號

大正十一年官房(二七五号)ニテ本号ヲ廢止

球磨型巡洋艦及天龍、龍田ハ平常用燃料トシテ第一種  
煤炭ヲ供用スルコトヲ得

大正十一年四月十五日

海軍大臣男爵加藤友三郎

## ○辭令

海軍大佐 遠藤 格

海軍省臨時勤務員トシテ軍務局勤務ヲ命ス

海軍大尉 桑原 虎雄

對潜水艦方策調査研究委員會委員ヲ命ス

戰利航空機實驗研究委員ヲ命ス

海軍大尉 長谷川 喜一

臨時海軍航空術講習部部員ヲ命ス

臨時海軍航空術講習部部員ヲ命ス(以上前記海軍省)  
海軍機關大尉 正田 十吉

海軍公報 (部内限) 第六百二十一號 大正十一年四月十五日

一四五

0876

海軍公報

(部内限)第六百二十二號

海軍大臣官房

大正十一年四月十七日(月)

○令達

官房第一四一六號

大正十年官房第一七四一號亞細亞露領沿岸ニ派遣スル  
艦船乘員ノ給與ニ關スル件申左ノ通改正ス

大正十一年四月十七日

海軍大臣男爵加藤友三郎

第一項但書中「軍艦石見及」ヲ削ル  
同項中軍艦石見ノ項ヲ削ル

○通牒

軍第一八八號ノ三

大正十一年四月十七日

海軍省軍務局長 堀内三郎

各 廳 長 殿

無線電信呼出符號ニ關スル件

今般左記特設運送船ノ無線電信通信ニ關シテハ海軍無線電報取扱規約ヲ準用スルコト相成候  
右通牒ス

記

廣 速 丸

(無線電信呼出符號 J I O)

○辭令

海軍軍令部出仕兼參謀海軍大佐 池田 他人  
第一班第一課兼第三班第五課勤務ヲ命ス(海軍軍令部)

海軍公報 (部内限) 第六百二十二號 大正十一年四月十七日

四七

0877

# 海軍公報

(部内限) 第六百二十三號

大正十一年四月十八日(火)

海軍大臣官房

## ○令達

官房第一四四四號

馬公防備隊所屬雜役船公稱第八二一號及第一〇六九號ノ船種及所屬ヲ左ノ通變更ス

大正十一年四月十八日

海軍大臣 男爵 加藤友三郎

公稱番號	新船種	舊船種	所屬	記事
第八二號	運貨船 <small>ダルマ型</small>	水雷運	馬公要港部	定數補充
第一〇六九號	運貨船 <small>ダルマ型</small>	水雷運	馬公要港部	定數補充

## ○辭令

海軍軍令部出仕兼參謀海軍中佐 津田 靜枝  
第三班勤務ヲ命ス

第三班第五課勤務ヲ命ス  
海軍軍令部出仕海軍大尉 多賀 高秀

第三班軍事調査課勤務ヲ命ス(以上均、海軍軍令部)

## ○雜款

### ○判決

判決書

海軍公報 (部内限) 第六百二十三號 大正十一年四月十八日

海軍公報 (部内限) 第六百二十三號

大正十一年四月十八日

一五〇

0879

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>



海軍公報 (部内限) 第六百二十三號  
大正十一年四月十八日

一五二

0880

海軍公報 (部内限) 第六百二十三號 大正十一年四月十八日

一五二

0881

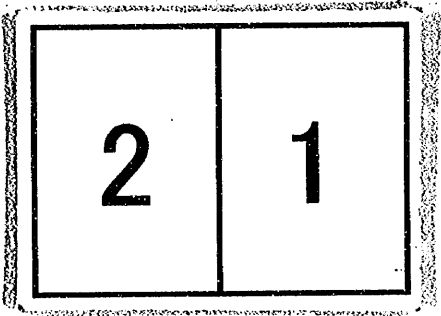
海軍公報 (部内限) 第六百二十三號 大正十二年四月十八日

一五三



0882

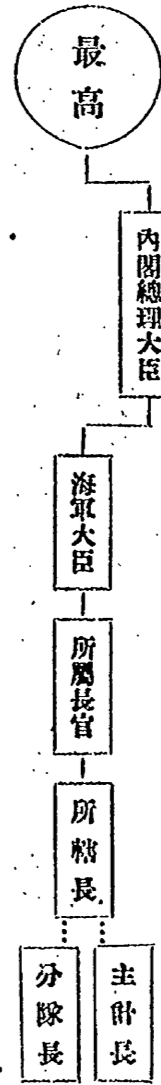
## 分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A3版以上のため
文書等名	叙位叙動調査便覧
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

# 叙位叙勳調査便覽

(第二版)

一、要旨  
 本便覽ハ叙位叙勳資格年調査ノ任ニ在ル分隊長、分隊士等ノ參考ニ資センカ爲關係諸法規及從來附リ易キ遺失ニ對スル注意ヲ摘録シタルモノナリ  
 叙位叙勳具申進達ノ系統概要左ノ如シ



## 第一 叙位

### (限 内 部)

- 二、叙位ニ關スル要則
  - 甲、平常準據スヘキモノ
    - (一) 叙位條例 (諸例則卷一、第九類)
    - (二) 文武官叙位進階内則 (内令提要 第十類)
  - 乙、戦死者ニ適用スヘキモノ
    - (三) 戦死者贈位叙位進階内則 (内令提要 第十類)
    - (四) 戦死者贈位叙位進階取扱手續 (同)
- 三、叙位具申

官 等	具申進達期日及順序	規 定
勅 任 官	(人事局ニ於テ直接之ヲ取扱フ)	
奏 任 官	叙位定限年ニ達スル十五日以前迄ニ所轄長 ヨリ大臣ニ進達(長官經由)	海軍高等官叙位具申手續(諸例則卷一、第九類)
特務士官、 准士官、 下士官	叙位定限年ニ達スル十五日以前迄ニ所轄長 ヨリ長官ニ具申シ長官ヨリ大臣ニ進達	海軍特務士官准士官(右同) 下士官叙位叙勳具申手續(右同)
判任文官	右ニ準ス	右ニ準ス(諸例則卷一、第九類 四年補正第五號)

### 四、叙位資格年數計算法

- 文武官叙位進階内則(内令提要第十類)ニ依リ計算ス其ノ概要左ノ如シ
- (一) 前叙以後實際ノ勤務日數ヲ計算ス
  - (二) 從軍年ヲ加算スルコトナシ
  - (三) 待命休職等ノ日數ヲ除算ス
  - (四) 刑罰ニ對シテハ相當除算ヲ爲ス(文武官叙位進階内則第九條)
- 五、叙位具申ニ關シ從來起リシ過失或之ニ對スル注意
- (一) 叙位資格調査ノ主任者カ調査ヲ忘却シ爲ニ具申ノ期ヲ失スルモノアリ所屬人員ノ叙位資格豫定期日一覽表ヲ作り置き手廻ナキ様注意ヲ要ス
  - (二) 前叙以後待命休職等アルニ氣附カス除算ヲ爲ササル爲無資格者ヲ具申スルモノアリ
  - (三) 待命休職停職中ハ叙位進階セラルルコトナシ從テ此期間ハ具申ヲ爲ササルコト
- (注意) 特務士官以下ニシテ現ニ具申中ノ者ニ待命休職等ヲ命セラレタルトキハ海軍特務士官准士官下士官叙位叙勳具申手續第五條ニ依リ人事局長ニ電報スルコト
- (四) 進級ニ因ル相當位ハ具申ヲ要セズ
- (例) 從六位ノ者中佐ニ任官シ正六位(中佐ノ相當位)ニ叙位資格ヲ生スルモ具申ヲ要セズ(海軍高等官叙位具申手續第一條第二項)
- (五) 文武官叙位進階内則第四條ノ高等官在職滿十年以上トアルハ實際高等官タリシ日數ニ就キ計算シ奏任待遇又ハ判任官ノ日數ヲ同様ノ高等官在職年數ニ通算スルコトヲ得ス
- (六) 叙位具申中ノ者轉勤轉乘ノ際ハ舊所轄長ヨリ新所轄長ニ通報スヘキニ之ヲ忘却セル爲重複具申ヲ爲セルモノアリ(海軍高等官叙位具申手續第六條、海軍特務士官准士官叙位具申手續第四條)

## 第二 叙勳

- 六、叙勳ニ關スル要則
  - (一) 明治八年太政官布告第五四號 (諸例則 第九類)
  - (二) 明治二十一年勅令第一號 (同 右)
  - (三) 叙勳内則 (内令提要 第十類)
  - (四) 叙勳内則取扱手續 (同 右)
  - (五) 海軍准士官、下士官勳八等ニ敘スル實期 (同 右)
- 七、叙勳具申

官 等	具申進達期日及順序	規 定
勅 任 官	(人事局ニ於テ直接之ヲ取扱フ)	
奏 任 官	毎月末日迄ニ資格ヲ生スル者ニ就キ其ノ 月十日迄ニ所轄長ヨリ大臣ニ進達(長官 經由)	海軍高等官叙勳具申手續(諸例則 第九類)
特務士官、 准士官、 下士官	毎月十五日現在ニテ翌月々末日迄ニ資格ヲ 生スル者ニ就キ其月末日迄ニ長官ニ具申、 翌月十日迄ニ大臣ニ進達	海軍特務士官准士官(右同) 下士官叙位叙勳具申手續(右同)
判任文官	右ニ準ス	右ニ準ス(諸例則卷一、第九類 四年補正第五號)

五、敍位具申ニ關シテハ相當除算ヲ爲ス(文武官敍位進階内則第九條)

- (一) 敍位資格調査ノ主任者カ調査ヲ忘却シ爲ニ具申ノ期ヲ失スルモノアリテ所屬人員ノ敍位資格豫定期日一覽表ヲ作り置き手廻ナキ様注意ヲ要ス
(二) 前敍以後待命休職等アルニ氣附カス除算ヲ爲ササル爲無資格者ヲ具申スルモノアリ
(三) 待命休職停職中ノ敍位進階セラルルコトナン從テ此期間ハ具申ヲ爲ササルコト
(注意) 特務士官以下ニシテ現ニ具申中ノ者ニ待命休職等ヲ命セラレタルトキハ海軍特務士官准士官下士官敍位敍動具申手續第五條ニ依リ人事局長ニ電報スルコト
(四) 進級ニ因ル相當位ハ具申ヲ要セス
(例) 從六位ノ者中佐ニ任官シ正六位(中佐ノ相當位)ニ敍位資格ヲ生スルモ具申ヲ要セス(海軍高等官敍位具申手續第二條第二項)
(五) 文武官敍位進階内則第四條ノ高等官在職滿十年以上トアルハ實際高等官タリシ日數ニ就キ計算シ獎任待遇又ハ判任官ノ日數ヲ同條ノ高等官在職年數ニ通算スルコトヲ得ス
(六) 敍位具申中ノ者轉勤轉乘ノ際ハ舊所轄長ヨリ新所轄長ニ通報スヘキニ之ヲ忘却セル爲重複具申ヲ爲セルモノアリ(海軍高等官敍位具申手續第六條、海軍特務士官准士官下士官敍位敍動具申手續第四條)

第二 叙勳

六、敍勳ニ關スル要則

- (一) 明治八年太政官布告第五四號 (諸例則 第九類)
(二) 明治二十一年勅令第一號 (同 右)
(三) 敍勳内則 (内令提要 第十類)
(四) 敍勳内則取扱手續 (同 右)
(五) 海軍准士官、下士官勳八等ニ就スル賞期 (同 右)

七、敍勳具申

官等	具申進達期日及順序	規	定
勅任官	(人事局ニ於テ直接ニテ取扱フ)		
奏任官	毎月末日迄ニ資格ヲ生スル者ニ就キ其ノ月十日迄ニ所轄長ヨリ大臣ニ進達(長官經由)	海軍高等官敍勳具申手續(諸例則第九類)	
特務士官、下士官	毎月十五日現在ニテ翌月々末迄ニ資格ヲ生スル者ニ就キ其ノ月末日迄ニ長官ニ具申、翌月十日迄ニ大臣ニ進達	海軍特務士官准士官、下士官敍位敍動具申手續(右同)	
判任文官	右ニ準ス	右ニ準ス(諸例則卷一、第九類四年達第二五號)	

八、敍勳資格年數計算法

- 敍勳内則第二十四條調査例則及敍勳年數計算例(内令提要第十類)ニ依リ計算ス其ノ概要左ノ如シ
(一) 任官又ハ前敍ノ日ヨリ勤務月數ヲ計算シ之ニ從軍年ヲ加算シテ敍勳資格年數ヲ算出ス
(二) 任官又ハ前敍ノ月ニ對スル計算法(敍勳年數計算例一、二、三項)
(三) 判任、奏任、勅任等歷進シタルモノニ通算法(敍勳内則第二十四條敍勳年數計算例二、八)
(參照) 兵ノ服役年數(下士官ノ勤務月數トシテ加算ス(内令提要第十類、明治三十五年海軍第四〇三八號ノ三)
(四) 前號ノ場合ニ於ケル從軍年加算モ亦之ニ準ス(敍勳内則第二十四條第一項第一號)
(五) 從軍年、航海年ノ加算ハ「從軍年始終期」ニ依ルモノトス
(六) 待命、休職、停職ノ日數ハ除算ス
(七) 刑罰ニ對スル除算(内令提要第十類海軍武官勤務年數減算法)
九、敍勳具申ニ關シテハ從來起リシ過失之ニ對スル注意
(一) 敍勳資格調査ノ主任者カ調査ヲ忘却シ爲ニ具申ノ期ヲ失スルモノアリテ所屬人員ノ敍勳資格豫定期日一覽表ヲ作り置き手廻ナキ様注意ヲ要ス
(二) 從軍年加算ノ計算ヲ誤リタル爲無資格者ノ敍勳具申ヲ爲セルモノアリ
(三) 戰功又ハ特別敍勳者進級ノ場合ニ往々從軍年加算ヲ該敍勳ノ日ヨリ直ニ起算スル向アリ右ハ誤ニ付敍勳年數計算例第九號第一例(内令提要第十類)ヲ了解シ置クヲ要ス
(四) 前敍ノ月ハ日ノ如何ヲ問ハス一ヶ月トシ任官ノ日カ月ノ十五日以前ナレハ一ヶ月、十六日以後ナレハ半ヶ月トシ月數ニ依リ計算スヘキニ往々日數ヲ算出スルモノアリ
(五) 敍勳具申中ノ者轉勤轉乘ノ際ハ舊所轄長ヨリ新所轄長ニ通報スヘキニ之ヲ忘却セル爲重複具申ヲ爲セルモノアリ(海軍高等官敍勳具申手續第六條、海軍特務士官准士官下士官敍位敍動具申手續第四條)
(六) 官等進級セハ勳等進級年限短縮スルヲ以テ進級シタル場合ニハ其ノ際直ニ進級資格ヲ生セサルヲ否キ注意ヲ要ス
(七) 戰役勤務ノ開始又ハ轉備外國航海ニ出發ト同時ニ從軍年加算ヲ生シ進級資格ヲ生スルモノアリ此等ノ場合ニハ一應敍勳資格ノ調査ヲ要ス
(八) 勳七等以下ノ文武官ニシテ奏任官トナリタルトキハ勳八等ヨリ一年二月餘ニテ七等ニ、其ノ後二年ニシテ六等ニ昇進ス(内則第十五條第四項後段)其ノ計算法ハ内則第二十四條第一項第一號ニ據ルヘキニ係ラス判任ノ年數ヲ半減セスシテ通算スルモノアリ

【注意】 敍位敍勳資格計算ニ際シテ從軍年加算法等現行法規ニ稍不備ノ點アルモ改正ノ時期迄ハ現行ノ諸規定通正確ニ計算スルヲ要ス

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第六百二十四號

大正十一年四月十九日(水)  
海軍大臣官房

○令 達

官房第一四五七號

今般海軍潜水學校ニ於テ轉輪羅織儀並水中聽音機ノ構造取扱法ニ關スル臨時講習ヲ施行ス

左記ニ依リ臨時講習員ヲ派遣スヘシ

大正十一年四月十九日

海軍大臣 男爵 加藤友三郎

一、講習員

吳軍港在泊第一潜水戰隊所屬各潜水艦乘組兵科將校及該兵器ニ關係アル下士官 但シ主トシテ潜水學校ニ於テ該教程ヲ經サル者

二、講習開始期日

大正十一年五月中旬ト豫定シ期日ニ關シテハ直接潜水學校校長ヲシテ關係部ニ通牒セシム

三、講習期間

約十日

右告達ス

海軍公報 (部内限) 第六百二十四號 大正十一年四月十九日

# 海軍公報

(部内限) 第六百二十五號

大正十一年四月二十日(水)  
海軍大臣官房

## ○令達

官房第一四七三號

今般海軍軍醫學校ニ於テ第四回臨時醫術講習ヲ施行ス  
左記ニ依リ講習員ヲ派遣スヘシ

大正十一年四月二十日

海軍大臣 男爵 加藤友三郎

## 一、講習員

海軍軍醫少佐 向坂 賢

同 川口 善一

同 山城 榮治郎

同 勝 正吉

## 二、講習時期

大正十一年四月二十五日ヨリ同年六月十三日迄

## ○通牒

經船第八號

大正十一年四月二十日

海軍省經理局長 志 佐 勝

日高丸傭入ニ關シ左記ノ通契約締結セリ

運送船傭入契約書

海軍省經理局長志佐勝(以下甲ト稱ス)ハ運送船トシテ  
汽船日高丸(載貨重量噸數五千五百噸)(以下本船ト稱ス)  
傭入契約ヲ栗林商船株式會社事務取締役水梨岩太郎  
(以下乙ト稱ス)トノ間ニ締結スルコト左ノ如シ  
第一條 本船ハ横須賀軍港ニ到着ノ日ヨリ傭入スヘキ  
ニ付乙ハ積荷悉皆陸揚ヲ終リ一キロ以上ノ無線電信  
三噸以上ノ冷蔵庫力量十五噸以上ノ「デリック」及  
一等客二名以上收容ノ設備ヲナシ航海準備ヲ整ヘ大  
正十一年四月六日迄ニ横須賀軍港ヘ到着スルモノト  
ス

但シ傭入日迄ニ殘存セル燃料炭ハ本船返還ノ際ニ於  
ケル燃料炭ト差引精算スルモノトス  
第二條 本船傭入中ハ海軍ニ於テ任意ニ之ヲ使用スヘ

海軍公報(部内限) 第六百二十五號

大正十一年四月二十日

一五七

0886



キヲ以テ其ノ進退及物品ノ積載卸下等ハ總テ甲ノ指  
揮ヲ受クルモノトス

積荷ニ生シタル損害及過不足ニ對シテハ乙又ハ其使  
用人ノ故意又ハ重大ナル過失ニ基因スル場合ノ外乙

ハ其責ニ任ヤサズトス  
第三條 本船ノ使用期限ハ橫須賀軍港ニ到着後約一ケ  
月半トシ横須賀軍港ト南洋群島トノ間ヲ一往復スル

モノトス其ノ日數ヲ計算スルハ第一條ニヨリ初メテ  
使用シタル日ヨリ海軍ノ役務ヲ了ヘタル日ヲ以テ限

トシ其間左ノ割合ヲ以テ使用料ヲ仕拂フモノトス  
一ヶ月ノ使用料金、、、、

但シ端日數ハ其月ノ現日數ニヨリ計算ス  
第四條 甲ハ都合ニヨリ前條ノ使用期間ヲ延長シ若ハ  
期間内ニ於テモ解僱スルコトヲ得ルモノトス此ノ場

合ニ於テ乙ハ損害ノ要償ヲナスコトヲ得ス  
第五條 第三條使用料ノ外本船航海用石炭、用水ハ現

品又ハ代價ヲ以テ支給シ海軍ヨリ乗組又ハ便乗スル  
人員ノ食物ノ代價ハ供食數ニ應シ各自ヨリ之ヲ仕拂

フヘシ  
但本文ノ石炭及用水ノ代價ハ證明書ヲ添ヘ届出ヲタ  
ル搭載數量ニ應シ實費ヲ以テ仕拂フ又橫須賀ニ於テ

本船ヲ積込ミ「トラック」及「トバラック」ニ陸揚スヘ  
キ石炭其他ノ荷役費用ハ「トラック」揚(南洋貿易

株式會社)附近「ト」ラック揚其ノ噸料付金、曲  
也ヲ支拂フ

但「トラック」揚ニシテ南洋貿易株式會社埠頭附  
近以外ナルトキハ之カ爲ニ増加シタル船費ハ體

明書ニヨリ實費ヲ支拂フ  
第六條 海軍ニ於テ特ニ修理改造ヲ行ヒ若ハ本船使用  
中甲ノ指揮ニ原因シ生シタル損害ニ對シ修理ヲ要ス

ル場合ハ海軍ニ於テ其ノ費用ヲ負擔ス使用上自然ノ  
破損ニ依リ若ハ船員ノ故意若ハ過失ニヨリ生シタル

損害ニ對シ修理改造ヲ要スル場合ハ乙ニ於テ之ヲ負  
擔ス海難其他ノ事故ヨリ本船ノ亡失毀損ヲ生シタ

ル場合ニ於テハ甲ハ一切其實ニ任セサルモノトス  
第七條 本船傭入期間ニ於テ乙ノ過失ニヨリ破損ヲ來

タシ修理ノ爲使用シ能ハサルコト十日以上ニ及ブト  
キハ十日間後ハ使用料ヲ仕拂ハサルモノトス

第八條 本船ノ船長以下運轉士、機關士等ノ要職ニ當  
ル者ハ技術優秀ナル本邦人タルヲ要シ又甲ノ承認ヲ  
經ルニ非サレハ固有定員ヲ減スルコトヲ得サルモノ

トス  
乙ハ技術優秀ナル電信員ヲ乘船セシムルモノトス

第九條 乙ハ本船船長ヲシテ本船固有ノ定員圖書及現  
員名簿ヲ調製シ甲ニ提出セシメ爾後現員ニ乘退船死

亡轉職等ノ異動アルトキハ其都度之ヲ甲ニ届出ツヘ  
シ

第十條 乙カ本契約ノ履行ヲ全クセサルトキハ甲ハ直  
ニ本契約ノ全部ヲ解除ス此場合ニ於テハ違約金トシ

テ一ヶ月使用料金ノ百分ノ十ヲ官ニ納付スルモノト

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

0887

第十一條 乙ハ本契約ニ關シテハ軍事上秘密ヲ嚴守スルノ義務ヲ負フ  
第十二條 第三條ノ使用料及第五條ノ石炭、用水ノ代價及荷役費ハ其月分ヲ翌月以後ニ於テ代價請求書受領後十五日以内ニ海軍省經理局ニ於テ仕拂フモノトス

第十三條 乙ハ甲ノ承認ヲ經ルニ非サレハ本契約ニヨリ生スル債權ヲ第三者ニ讓渡スル事ヲ得ス

第十四條 本契約上ノ疑義ニ關シテハ甲ハ最後ノ決定力ヲ有スルモノトス

右契約ノ確實ヲ證スル爲本書貳通ヲ作り各自署名捺印シ其壹通ヲ保有スルモノナリ

大正十一年四月一日

海軍省經理局長 志 佐 勝

栗林商船株式會社  
船主 專務取締役 水梨岩太郎

0888

(部内限)

# 海軍公報 (部内限) 第六百二十六號

大正十一年四月二十一日(金) 海軍大臣官房

## ○令達

官房第一四九三號

大正四年十二月官房第三八二五號中「軍艦石見」ヲ削

ル  
本令ハ大正十一年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十一年四月二十一日

海軍大臣男爵加藤友三郎

參照 大正四年十二月官房第三八二五號ハ臨時軍事費ヲ以テ經費ヲ

支辨スヘキ各部ノ件ナリ

官房第一四九四號

大正四年十二月官房第三八二五號中「軍艦千早」  
「第六驅逐隊」ヲ加ス

本令ハ大正十一年五月十五日ヨリ之ヲ施行ス

大正十一年四月二十一日

海軍大臣男爵加藤友三郎

○勅諭

海軍公報 (部内限) 第六百二十六號 大正十一年四月二十一日

參照 大正四年十二月官房第三八二五號ハ臨時軍事費ヲ以テ經費ヲ  
支辨スヘキ各部ノ件ナリ

## ○辭令

(各通)

海軍少佐 堀 政夫

同 松永 壽雄

海軍航空隊練習部移轉準備委員ヲ命ス(附海軍省)

## ○雜款

○第二十一驅逐隊(樺、桐、橘、櫻)南支那巡航豫定

地名 著

發

馬公

四月二十七日

四月二十六日

廣東

四月三十日

三月十日

香港

五月五日

五月四日

汕頭

五月七日

七月九日

廈門

七月九日

九日

一六一

0889

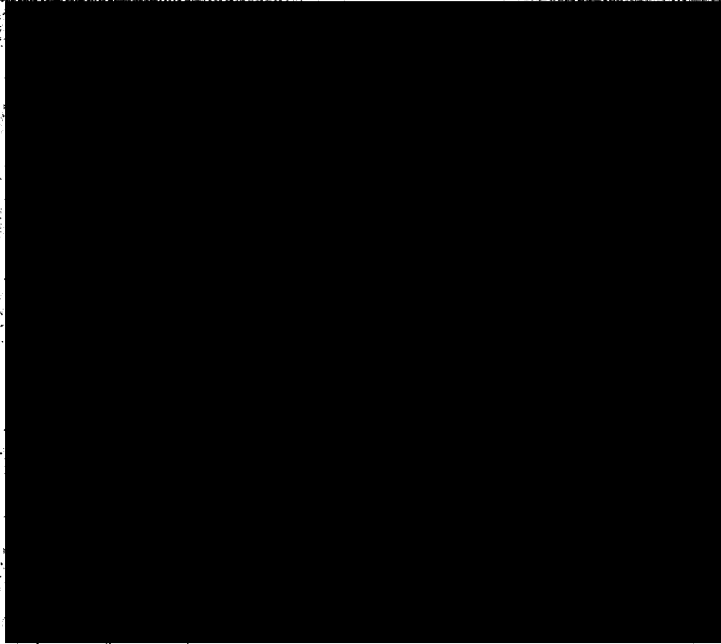
海軍公報（部内限）第六百三十六號

大正十二年四月二十二日

一六三

○懲罰

懲罰言渡書



Vertical columns of Japanese text, likely a disciplinary record or official report, written in a formal style.

0890

( 部 内 限 )

海軍公報

(部内限) 第六百二十七號

大正十一年四月二十二日(土)  
海軍大臣官房

○訓令

海軍大尉 辻田 正一

臨時適性検査研究部長ノ命ヲ承ケ服務スヘシ  
横須賀ニ於テ勤務スヘシ(註+海軍教育本部長)

海軍公報 (部内限) 第六百二十七號 大正十一年四月二十二日

一六三

0891



曳船料其他港則ニヨリ支拂ヲ要スル費用ハ甲ノ負擔トシ其他ノ費用ハ總テ使用料ニ含有スルモノトス但シ本文ノ石炭、用水ノ代價ハ證明書ヲ添ヘ届出テタル搭載數量ニ應シ實費ヲ以テ支拂ヒ現食物ノ代價ハ供食數ニ應シ各自ヨリ之ヲ支拂フモノトス但下士官兵ノ食料ハ海軍ノ指定代價ヲ以テ官ニ於テ之ヲ支拂フモノトス

第六條 海軍ニ於テ特ニ修理改造ヲ行ヒ若ハ本船使用中甲ノ指揮ニ原因シ生シタル損害ニ對シ修理ヲ要スル場合ハ海軍ニ於テ其ノ費用ヲ負擔ス

使用上自然ノ破損ニ依リ若ハ船員ノ故意又ハ過失ニ依リ生シタル損害ニ對シ修理改造ヲ要スル場合ハ乙ニ於テ之ヲ負擔ス海難其他ノ事故ニヨリ本船ノ亡失毀損ヲ生シタル場合ニ於テハ甲ハ一切其實ニ任セサルモノトス

第七條 本船傭入期間ニ於テ船員ノ過失ニヨリ破損ヲ來タシ修理ノ爲使用シ能ハサルコト十日以上ニ及ブトキハ十日間後ハ使用料ヲ仕拂ハサルモノトス

第八條 本船ノ船長以下運轉士、機關士等ノ要職ニ當ル者ハ技術優秀ナル本邦人タルヲ要シ又甲ノ承認ヲ經ルニ非サレハ固有定員ヲ減スルコトヲ得サルモノトス

第九條 乙ハ本船船長ヲシテ本船固有ノ定員調書及現員名簿ヲ調製シ監督官ヲ經テ甲ニ提出セシメ爾後現員ニ乘退船死亡轉職等ノ異動アルトキハ其都度監督

官ヲ經テ之ヲ甲ニ届出ツヘシ  
第十條 乙カ本契約ノ履行ヲ全フセサルトキハ甲ハ直ニ本契約ノ全部ヲ解除ス此場合ニ於テハ違約金トシテ一ヶ月使用料金ノ百分ノ十ヲ官ニ納付スルモノトス

第十一條 乙ハ本契約ニ關シテハ軍事上ノ秘密ヲ嚴守スルノ義務ヲ負フ

第十二條 第三條ノ使用料及第五條ノ石炭用水等ノ代價ハ其月分ヲ翌月以後ニ於テ代價請求書受領後十五日以内ニ海軍省經理局ニ於テ仕拂フモノトス

第十三條 乙ハ甲ノ承認ヲ經ルニ非サレハ本契約ニヨリ生スル債權ヲ第三者ニ讓渡スル事ヲ得ス

第十四條 本契約上ノ疑義ニ關シテハ甲ハ最後ノ決定力ヲ有スルモノトス

右契約ノ確實ヲ證スル爲本書貳通ヲ作り各自署名捺印シ各壹通ヲ保有スルモノナリ

大正十一年四月一日

海軍省經理局長 志 佐 勝

大阪市西區江子島東町

船主 廣海商事株式會社

專務取締役 横山彦太郎

東京市芝區伊皿子町十六番地

右代理人 太刀川 又八郎

0893

(限 内 部)

海軍公報(部内限)附録

大正十一年四月二十五日(火)  
海軍大臣官房

○通信時間改正  
船橋海軍無線電信所通信時間(大正十一年四月二十五日附録参照)左ノ通改正來五月一日午前零時ヨリ實施ノ旨通知アリタリ  
大正十一年四月二十五日  
海軍省副官 野村吉三郎

中央標準時	午前											午後											備考		
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9		10	11
遞 信												↔												↔	一、午後十時ヨリ一時間當分海軍ニテ使用ス 二、本所ヘノ通信距離外ニ行動スル艦船ハ電報了解セシ時ハ有線等ニテ速 三、(A)符ヲ添付セシ時間ハ電弧式(波長當分六千)ニテ發送スルヲ意味ス 四、分ト重複スルコトアルヘシ 五、(波長一萬二千)ニテ通信試驗ノ爲新聞記事發送ス但シ記事ハ通信社ノ 六、新聞午後九時ハ日本無線電信社ヨリ發送スル分午後三時ハ電弧式 七、通信輻輳ハ左記ノ時間外トス 八、緊急通信ハ左記ノ時間外トス
新 聞																								→	
ト ラ ッ ク		→																						→	
宗 谷				→		→																		→	
オホツク方面艦			→			→																		→	
亞 港	→																							→	
日 進				→						→														→	
佐 世 保 山											→													→	
第一遣外艦隊																								→	
一、三 艦 隊										→														→	
總 艦 船 所										→														→	



# 海軍公報 (部内限) 第六百二十九號

大正十一年四月二十六日(水)  
海軍大臣官房

## ○令 達

官房第一五五九號  
佐世保海軍港務部所屬標的船小鷹ヲ橋船ニ變更シ佐世保防備隊所屬ト定ム  
大正十一年四月二十六日  
海軍大臣 男爵 加藤友三郎

官房第一五六〇號  
大正十年度新造雜役船ノ所屬及公稱番號左ノ通定ム  
大正十一年四月二十六日  
海軍大臣 男爵 加藤友三郎

船種	公稱番號	所屬	記 事
曳船兼交通船 二〇噸 第十四節	第五七號	海軍潜水學校	大正十一年一月(部外注記) 深川造船所ニ於テ新造ノ分
同 三〇噸 第十三節	第三八號	佐世保海軍航空隊	大正十一年一月(訓令) 佐世保海軍工廠ニテ新造ノ分

## ○通 牒

同 十五噸 第十一節	第五九號	馬公要港部	定數 補充	大正十一年三月(訓令) 橫須賀海軍工廠ニテ新造ノ分
重油船 三〇〇噸	第二四二號	吳海軍工廠	定數 補充	大正十一年二月(訓令) 吳海軍工廠ニテ新造ノ分
同 一五噸噸積	第二四三號	吳海軍工廠	定數 補充	右 同
傳馬船 三七噸	第二四四號	吳海軍港務部	定數 補充	右 同
同 三七噸	第二四五號	吳海軍港務部	定數 補充	右 同
運貨船 型シヤラン 一〇〇噸	第二四六號	橫須賀海軍港務部	定數 補充	大正十一年三月(訓令) 橫須賀海軍工廠ニテ新造ノ分

海軍公報 (部内限) 第六百二十九號 大正十一年四月二十六日 二六七

0895

雜役船新定數表ノ件

今同内令第四百九十九號ヲ以テ雜役船定數表ヲ改メラレ候處現有雜役船ニシテ定數超過ト相成ルモノハ便宜老朽船ヨリ淘汰シ漸次新定數ト一致セシムル様可然御取計ヲ得度尙改正表ニハ接續艇水雷運貨船團平船ノ名稱ヲ廢止サレタルニ依リ在來ノ接續艇ハ傳馬船トシ水雷運貨船及團平船ハ「ダルマ」船トシテ整理スルコトト御了知相成度  
右申進ス

艦本機密第一四三一號

大正十一年四月二十六日

海軍 艦政本部

關係各隨御中

無煙火藥現狀報告ニ關スル件

艦船供用無煙火藥現狀報告格納庫名欄ニハ艦船内固有庫名ヲ記入シ陸揚預入ノ場合ハ種目格納所口分ケヲ異ニスル毎ニ各別ニ陸揚年月日及陸上預入火藥庫番號ヲ夫々記事欄ニ記入スヘキ規定ナルモ之カ記註方粗漏且ツ區々ニシテ調査上不都合ニ付キ爾今規定通記註相成度

右通牒ス

教本第一七四號ノ六

大正十一年四月二十六日

海軍 教育本部

無線電信遠距離受信檢定成績調査資料ノ件

大正十一年四月第六回無線電信遠距離受信檢定信文送信要目左記ノ通

右通知ス

番號	送信日時	波長	速度	信文修正
一	四月十八日 午後二時五分	三四〇	壹	次
二				十五字目迄送信シタルモノハ依リ中止シ送信セス
三	二時十一分	三四〇	壹	次
四	二時十五分	三四〇	壹	次
五	二時十九分	三四〇	壹	次
六	二時二十三分	三四〇	壹	次

0896

七	同	二時二十八分	二四〇〇	三	九	
八	同	二時三十二分	二四〇〇	三	九	
九	同	二時三十六分	二四〇〇	三	九	本文七十四字目「エ」 後ノ終符「ナ」ト ナル
〇	同	二時四十分	二四〇〇	三	九	
一	同	二時四十四分	二四〇〇	三	九	
二	同	二時四十八分	二四〇〇	三	九	
三	同	二時五十二分	二四〇〇	三	九	本文六十三字目「セ」 ヲ「ソ」ト送信ス
考備	天候晴 送信状態良好					

○辭令

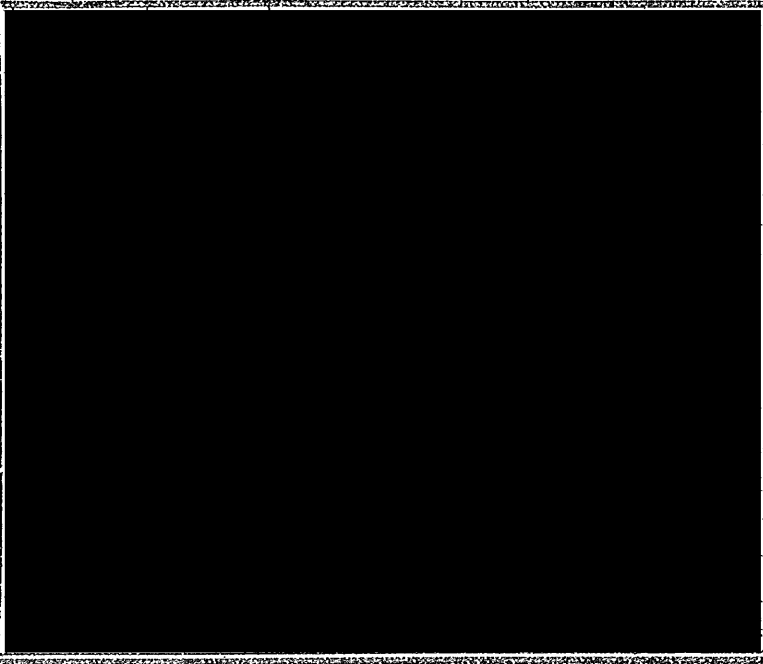
海軍技手 小關 直人

右者炭素含有防止劑ヲ考案シ飛行機其他ノ内火式機關製造ニ應用シ利益大ナリ仍テ金八拾圓ヲ賞賜ス(四月二日海軍省)

○雜款

○判決

判決書



海軍公報 (部内限) 第六百二十九號 大正十二年四月二十六日

0897

海軍公報 (部内限) 第六百二十九號 大正十二年四月二十六日

一七〇

0898

海軍公報 (部内限) 第六百二十九號

大正十二年四月二十六日

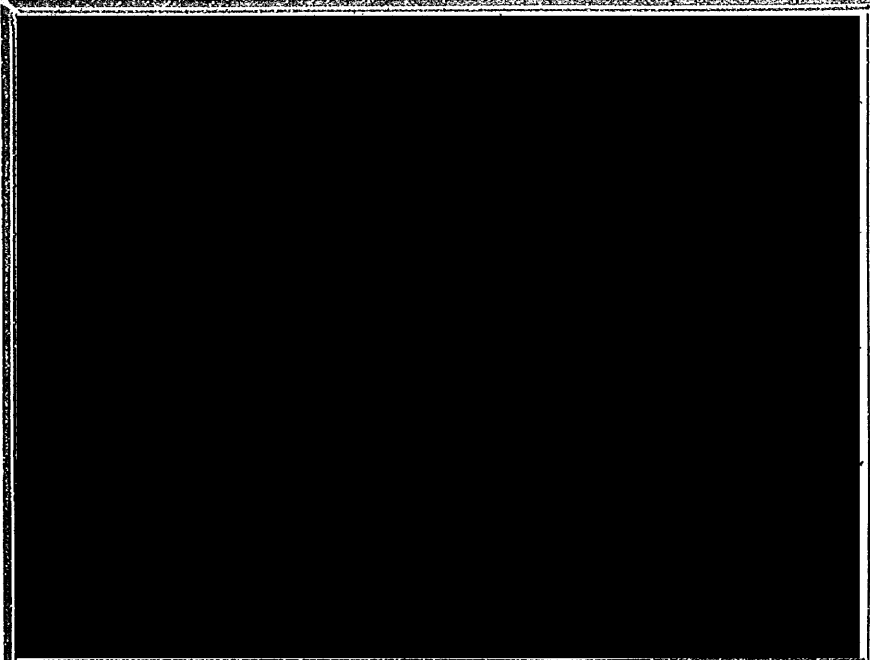
一七一

0899

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>



同		同		同		同		○職工解備 海軍造兵廠ニ於テ本年三月中解備セル職工左ノ如シ
同	一四	同	同	三、六	誓約違反	解備事由	解備月日	
同	同	同	同	見電	習氣	職名	氏名	
同	同	同	同	三六	七七	生年月日		

0900

同 二九	同 二六	同 二四	同	同	同 二三	同 二二	同 一八	同 一七	同 一六	同
工務規則第二十 八條第十二號	同	工務規則第二十 八條第八號	同	同	誓約違反	工務規則第二十 八條第十號	誓約違反	同	工務規則第二十 八條第十號	同
機工	檢査工	雜工	同	電氣工	仕上工	工記録手	見習電氣工	同	電氣工	見習仕上工
三、八三五	三、六二〇	三、五五四	三、八二六	三、五三三	三、五二九	三、九四四	三、六二六	一、九四二〇	三、九七一	三、二二六

0901

# 海軍公報

(部内限) 第六百三十號

大正十一年四月二十七日(木)  
海軍大臣官房

## ○通牒

官房機密第六〇九號

大正十一年四月二十七日

各鎮守府、各艦隊司令長官  
各要港部司令官 殿

廢止

潜水艦觀覽ニ關スル件

本件ニ關シ大正八年官房機密第一四九七號ヲ以テ申進  
候次第モ有之候處自今第八乃至第三十三潜水艦ニ限リ  
部外者ニ對シテモ一般艦船同様觀覽差許サルルコトニ  
相成候條御承知相成度  
右依命中進ス

## ○雜款

○懲罰

懲罰言渡書

海軍公報 (部内限) 第六百三十號 大正十一年四月二十七日

一七五

0902



海軍公報 (部内限) 第六百三十號 大正十一年四月二十七日

一七六

0903

海軍公報 (部内限) 第六百三十號 大正十一年四月二十七日

一七七

0904

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第六百三十一號

大正十一年四月二十八日(金)  
海軍大臣官房



○ 令 達

官房第一五九一號

大正四年十二月官房第三八二五號中「特務艦青島」ヲ

削ル

本令ハ大正十一年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十一年四月二十八日

海軍大臣 男爵 加藤友三郎

参照 大正四年十二月官房第三八二五號ハ臨時軍事費ヲ以テ經費ヲ

支辨スヘキ各部ノ件ナリ

海軍公報 (部内限) 第六百三十一號 大正十一年四月二十八日

一七九

0905

( 部 内 限 )

海軍公報

(部内限) 第六百三十二號

大正十一年四月二十九日(主)

海軍大臣官房

○ 令 達

官房第一六〇五號

大正八年官房第四〇號戰時特別給與品ノ件中「軍艦石見」ヲ「軍艦日進」ニ改ム

大正十一年四月二十九日

海軍大臣男爵加藤友三郎

海軍公報 (部内限) 第六百三十二號 大正十一年四月二十九日

一八一

0906